A 試合会場レポート

試合番号 **527**　　開催日 **2022/12/18**

令和4年度 天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会 女子　　会場： 東京体育館

観客数：	開始時間：	終了時間：	試合時間：	主審：	副審：
3,566	11:11	12:59	01:48	佐々木　伸子	渡部　菜保子

NECレッドロケッツ

監　督：金子 隆行
コーチ：井上 裕介

通　算：　－　勝　－　敗
ポイント：　－

東レアローズ

監　督：越谷 章
コーチ：中道 瞳

通　算：　－　勝　－　敗
ポイント：　－

3	25	第1セット【 00:21 】	14
	23	第2セット【 00:27 】	25
	25	第3セット【 00:24 】	18
	25	第4セット【 00:27 】	23
		第5セット【　】	
			1

ポイント　－　　【】内はセット時間　（）内は交代選手　　ポイント　－

第1セット

25	山田（野嶋）	古賀（）	大崎（井上）	クラン（）	14
	塚田（柳田）	山内（澤田）	西川（）	関（）	
	ウィルハイト（）	上野（）	石川（）	小川（）	

リベロ：小島　　リベロ：中島　水杉

第2セット

23	山田（）	古賀（）	クラン（）	関（）	25
	塚田（柳田）	山内（澤田）	井上（黒後）	小川（深澤）	
	ウィルハイト（）	上野（）	西川（中田）	石川（）	

リベロ：小島　　リベロ：中島　水杉

第3セット

25	山田（島村）	古賀（）	井上（黒後）	クラン（）	18
	塚田（）	柳田（）	中田（西川）	関（）	
	ウィルハイト（古谷）	上野（）	石川（）	深澤（）	

リベロ：小島　　リベロ：中島　水杉

第4セット

25	島村（）	古賀（）	井上（黒後）	石川（）	23
	塚田（山田）	柳田（）	西川（中田）	関（）	
	ウィルハイト（）	上野（）	クラン（）	深澤（）	

リベロ：小島　　リベロ：中島　水杉

第5セット

	（）	（）	（）	（）	
	（）	（）	（）	（）	
	（）	（）	（）	（）	

リベロ：　　リベロ：

<監督コメント>

優勝という結果で皇后杯を終われたことをただただ嬉しく感じています。ここまで楽な戦いは一つもありませんでしたが、どんな状況でも自分を、そしてチームを信じて戦った選手達に感謝の気持ちで一杯です。また、熱い応援を送り続けていただいたクルーの皆さんにも感謝で一杯です。ありがとうございました。
この喜びをもう一度味わうために、年明けのリーグ戦から一戦一戦挑んでいきたいと思います。引き続き応援をよろしくお願いします。

<監督コメント>

まずは優勝されましたNECレッドロケッツの皆様に心よりお祝い申し上げます。また、素晴らしい舞台を用意してくださった関係者の皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。
３年連続での皇后杯決勝となりましたが、スタートから選手の動きに硬さがあり、思うようにプレーができませんでした。途中、自分達の強みである攻撃力と粘りを見せることはできましたが、終始NECのサーブに苦しめられ、攻撃力を生かし切ることができませんでした。
年明けから再開されるVリーグでリベンジができるように、何が足りなかったのかを考え、精進してまいります。
本日も応援ありがとうございました。

<要約レポート>

11年振りの優勝を目指す東レアローズと、初優勝をかけたNECレッドロケッツの皇后杯決勝戦。
第１セット、立ち上がりからNECはサーブの狙いを徹底し、東レの攻撃を上手く機能させない。そしてレフトからの東レの攻撃をしっかりと対応する。ブロックとレシーブの関係性が良く、ブロックの脇を抜けて来るスパイクをリベロ小島がレシーブを何本もあげ、エースの古賀が決めるという理想の展開で東レを圧倒した。
第２セット、東レはスタートからチーム1のベテランであるミドルブロッカー井上を起用。Bクイックや、粘り強いブロックのワンタッチでラリーを続け、チームに安定感をもたらす。これまで封じ込められていた石川も、サーブや、バックアタックと、後衛からの攻撃で得点していく。それでもNECはウィルハイトと山田の高さのある2人のブロックで東レを先行させはしない。終盤、チームが必死に繋いだボールをクランに集め、見事期待に応える３連続得点で、鮮やかな逆転劇を起こした。
第３セット、両チームメンバーを入れ替えながらの総力戦へと展開していく。東レ・深澤がタイミングをずらしたスパイクで連続で決めれば、NEC・柳田がライト側から鋭い角度のインナースパイクを決める。流れを掴んだのはNECだった。上野はAクイックで東レのブロックをかいくぐり、レシーブや二段トスなども器用にこなし、チームの繋ぎ役としても存在感を放った。中盤から優勢に試合を進めたNECが王手をかけた。
第４セット、序盤から東レの石川が爆発。テンポ良く強烈なスパイクを決め、リードを広げる。その勢いに待ったをかけたのはNECの古賀だった。東レ・クランとのスパイクの撃ち合いに屈せず、コースをつく技術の高さで同点へと追いつく。東レ・井上のAクイックが連続で決まり、東レ3点リードへと変わるが、途中出場していたNEC・島村のいぶし銀の活躍により点差を戻した。最後はこの試合高い集中力を保ち続けたNEC・ウィルハイトのスパイクが決まり、歓喜の初優勝となった。

作成者：橋本　正太郎

※本票の著作権は、公益財団法人日本バレーボール協会に帰属します。